

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	寿康園グループホーム 宮之浦
(ユニット名)	翌檜 I
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市宮之浦町892番地
記入者名 (管理者)	上村慈人
記入日	平成21年3月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	寿康会の理念がありそれぞれ理念をもとにサービスなどを提供している。また、独自のものについては理念に沿った目標をスタッフ間で話し合い上半期・下半期の2回グループホーム独自の目標設定を行って達成状況の確認をしたり、検討を重ねている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフがよく目が届く所に運営理念を掲示し、職員会議でも運営理念を年度初めに勉強したりして、理念の重要性について話し合っている。グループホーム独自の目標に関しては職員会議の資料に毎回掲載を行い毎月振り返りなどを行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては家族会やケアプラン・サービスの中身を通して理解して頂くよう努めている。地域の人々へは、運営推進会議や地域交流などを通して理解して頂くように取り組んでいます。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に立ち寄りしてもらえよう散歩する中で声を掛け合ったり畑で収穫された野菜などをおすそ分けするなど日常的に付き合いができています。今年度は夜間消防訓練・餅つき大会を地域住民と合同で行い当園の理解を深めてもらう努力もしてきた。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の話し合いをきっかけに、地域で行われる行事へ参加している。保育園との交流、小・中学生との交流、六月燈や十五夜への参加など積極的に交流する機会を設けている。こちらも地域の高齢者サロン等で認知症への理解を深める活動など行い相互協力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体で地域密着、地域支援の取り組みを実施しており、身近な相談機関として活用されている。また近隣にあるグループホームや関係事業所とも連携し、互いに地域ネットワーク作りを促進している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果については、職員会議の際に全職員へ伝え、全員で対応を検討し改善してきた。また、その意義も職員会議などで話し、全スタッフが理解している。更に、家族へも外部評価結果を報告したり掲示したりして理解を深めていただいている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、外部評価結果の報告を行い改善対応策についても報告して、委員としての役割を担っていただいている。また会議を通じて今年度は夜間消防訓練を地域の方と合同で行えたり様々な活動に結びついている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者・地域包括支援センター・社協などとの連携に努めている。介護保険制度についての問い合わせなどについても介護保険課と相談しながら進めている。報告義務のあるものは報告するようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、年間の自主研修として予定に組込んで職員会議の際に学んできた。必要な方へはパンフレットを差し上げたり、相談支援をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画のなかに盛り込んで自主研修として学んできた。実際にどのような行為が虐待にあたるのかを具体的に説明したり、お互いに再確認したり、日々のケアの振り返りを行うようにしている。身体拘束廃止改善計画書も作成し年2回実施状況について把握に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後のトラブルを避ける為にも入居前の説明を時間をかけて行っている。事前連絡をしてもらい相談に対応しやすいように配慮して時間を設けて対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情体制を整えており、窓口として相談がしやすいよう全職員が受付けている。また、共同生活のためにストレスが生じやすいことを職員は理解して対応している。こちらからの聞き取りを行う事もある。貴重なご意見と捉え、鋭意改善に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料金の請求時に個別的に必要ながあれば報告など行っている。今年度は面会時に見ることのできない症状などを写真で掲示し、家族に対してに分かりやすく伝える工夫も行った。広報誌も発送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明で第三者の相談苦情受付窓口について説明している。アンケート箱も設置している。また面会時などご家族が貴重な意見を言えるような関係性を築けるように努力している。また今回の外部評価もその取り組みのひとつである。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、職員会議内で話し合ったり、その都度管理者が対応し全職員の意見を集約、総合的な判断をおこなっている。また全員の意見を引き出す為にアンケートを活用したり、人事考課の面接などで個々の希望などを聞き取りしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に配置人員増が必要と判断できる場合は、勤務表作成段階で人員数を増やしている。業務内容もできる範囲で入居者に合やす努力をしている。しかし、現状としては人員が限られた中での調整に苦労している。	○ 現在、理事長や法人本部でグループホームの質の向上、より良い入居者へのサービスの提供の為に、具体的な話しを進めて対応に努めてもらっている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は入居者への配慮を大事におき、事前に法人の総務部や管理者、各主任などより現状把握を行い、総合的に判断して対応してもらっている。お客様との関係性や法人内の諸事由のみではなく、職員間の人間関係にも十分配慮がある。	○ //

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は寿康会独自の人事考課に取り組んでいる。資格手当制度も設けられている。また、法人全体の取り組みとして、講師を招き法人内で定期開催する研修、園外研修へ参加したりと機会を確保されている。当園でも自主研修として年間計画をたて取り組んだ。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長が多職種が集まる研修会を開催しており研修にはいつでも参加できるよう総務からの支援もある。また、懇親会などへの参加も積極的に促してもらっている。グループホームでもネットワーク作りに励んで取り組んでいるところである。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	今年度は法人がメンタルケアについての取り組みおこなった。福利厚生の活用を促進している。また産業医を確保している。健康診断と腰痛検査も定期的実施、暑気払いや忘年会、親睦旅行など職員相互の親睦会を開催している。	○ グループホームはストレスがかかりやすい職場であるという事を理事長や法人本部の理解もあり、職員の環境整備に努められている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今年度より寿康会独自の人事考課を行い、一人ひとりの能力は違うが、それぞれ個々の具体的な目標設定を行い、達成状況について一緒に検討し来期の目標設定を行っている。人事考課をもとに賃金に反映させたり、法人からの感謝状などの取り組みを実施している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に頂く入居申込み書や、関係事業所からの情報提供を元に本人へ聞き取りを行うが先入観を持たずに、本人の意向を大事にするように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の意向と現実の間に立たされ悩んでいる家族が多いので本人だけでなく家族も大事に接している。入居前なども十分相談にのれるようになるべく事前連絡でお願いし、日程調整を行い、家族の都合に合わせ十分対応できるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当園で可能な事なのかどうかをしっかりと見極め、具体的な方法を本人・家族と話し合っている。安易には受け取らずユニット内のバランスなども検討している。法人のバックアップ体制もある(例:アルコール飲酒、紙おむつ申請、針治療)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に関して家族の意向が強い場合が多いので、なかなか納得の上でというのは難しいが、入居前に必ず家族と一緒に施設見学をして頂くようにしている。とりあえず入居いただいて外出外泊などの手段を用いたり徐々に慣れて貰う事もできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本的に過度の介護はしないようにしており残存能力を發揮できるように関わるようにしている。入居者から野菜の育て方、季節の行事、煮物の味付けなどこちらが教わるのが実際あり、その事を大事にしている。また喜怒哀楽を大事にしながらその都度対応している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流会を実施。面会時には記録を閲覧していただいたり、状況報告を行っている。記録の方法も本人の言葉などを記載する工夫をしている。また入居者の気持ちの代弁をこちらが家族に対し行うこともある。	○	面会時にはどうしてもマイナス的なことを聞くことが多いが写真など活用して良い表情、活動などのプラスの部分も見頂く様にしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係に於いては重点を置いており、入居してからあまり良くなかった家族関係が好転した方もいる。逆になかなか協力の得られない家族もおられるが請求時に書類で個々に報告や連絡をして取り組んでいる。	○	それぞれの家族により入居者への思いに違いが見られるが、こちらに対して協力が得られるように交流会への参加を促したり、自然とこちら側に引き込む努力をしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に関係をお聞きした上で、再び来園しやすいように、こちらから声かけしている。またゆっくり会話ができるように環境づくりを行っている。本人の認知症により戸惑ったりする場合は職員が間に入ったりする。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性や特徴などを理解してそれぞれに対応している。とても職員が気を使っている部分でもある。一人ひとりの関係性もだが、個人と集団の関係性も大事にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居したからそれで終わりというわけではなく、他のグループホームに移った方とハガキでの交流を続けたり、訪問したりその個人によって対応している。退居された家族が相談しやすいからと相談にこられるケースもありその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を思う様に伝える事が難しいですが、会話の中などで本人が発した言葉などを大事にし職員で話し合っている。また家族の意向が強くなる場合も現状としてあるが、なるべく本人の意向に対して家族が考えを変えていけるように働きかけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネからの情報提供やアセスメント時に本人・家族に聞き取り情報収集している。ただし職員が先入観を持ちすぎることのないように入居前に職員へ説明している。経過の把握については支援経過で把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方に個々に対応している。バイタルチェック表を工夫している。アセスメントの段階でもケアマネだけでなく全職員で話し合いながらアセスメントを取る様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン内容については意見を出し合いながら個々に合わせたプラン作成を心がけており、アイデアを反映させプラン作りに取り組んでいる。(例:尿瓶対応、針治療をしたい方への対応など)		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低半年に一度計画の立案している。期間関係なく取り組みたいが、現状ではケアマネのプラン作成時間確保が難しく、期間関係なくというのは現状では難しい状況ではある。	○	現在、理事長や法人本部でグループホームの質の向上、より良い入居者へのサービスの提供の為に、具体的な話しを進めて対応に努めてもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過は全職員が全員分の記録をするようにしており、問題の裏側にある物を探る為に入居者の言葉をそのまま記入するようにしている。情報共有の為に記録を活用している。その中からきっかけを探し出し介護計画に反映させるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現時点では医療連携加算などっていない。しかし相談支援やボランティアの受け入れ場所になっていたり研修の場となっていたり、外部より施設見学などにこられ認知症を知っていただく施設となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防の協力を得ている事はもちろんだが、地域行事に参加した際に民生委員の方の協力をいただいたり、学校行事に参加したり、ボランティアの受け入れをしたり、その時々に応じてお互いに協力し合っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	歯科による訪問診療を活用したり針治療の医療保険での対応などしている。その他としては鹿児島市のおむつの支給の活用などについて地域包括支援センターや担当課と協力したりしている。鹿児島市の介護相談員受け入れも実施。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	多種多様な相談ごとに対し事業所のみで困難の事も出てくるので法人全体で取り組んだり、地域包括支援センターと協働しながら、近隣の福祉関係者や公民館長などの関係者でのネットワーク作りをしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医が良い方はその方を担当医とし、私どもの協力医療機関を望まれた場合はそれに対応している。専門科が適当と見込まれる病院については家族へ相談し病院受診をお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に対する基本方針が策定されており、人権擁護についても自主研修として年度計画に組み込み、具体的などの様な行為がいけないのかを研修として学んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症によりなかなか思う様に伝える事が出来ないのでスタッフの気付きを大切にしている。言葉だけでなく表情や態度、しぐさなどの非言語的なコミュニケーションを読み取る力を大事にしるように勉強会もしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現時点の人員では日常生活を送っていただく事で精一杯で、一人ひとりのペースを大事にできる限り希望に沿うように外出支援などを行っているが、一人の入居者に一人の職員がついての対応は残っているスタッフに無理が生じたりしている現状がある。	○ 現在、理事長や法人本部でグループホームの質の向上、より良い入居者へのサービスの提供の為に、具体的な話しを進めて対応に努められている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近隣的美容院や床屋への本人希望があれば外出支援を行っており、お店にも協力をもらえる体制作りができている。また訪問散髪をしてもらったり、家族と外出時に馴染みの店で散髪されている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、下ごしらえ、準備、下膳の協力を入居者に関わってもらっている。今では入居者から声をかけていただくまでになっている。また献立作りは旬のものを取り入れる工夫をしている。食事形態や好き嫌いについても嗜好調査を行い対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒をたしなむ事ができ管理できる方は居室で飲む事が出来るように個人々人に対応をしている。体重制限が必要な方に関しては代替のものを提供している。管理が難しくなった場合は家族へも相談させていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本としている。自力排尿を大切にしており、出来ない方に対してはポータブルトイレなども活用している。安易にリハビリパンツすることでの弊害も理解している。尿瓶対応などしている方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は入居者からの意見で平等に入る事が出来るようにしてほしいとの事である程度と曜日、順番、時間設定をした。もちろん入居者から要望があったり清潔保持の為の入浴はいつでも対応。異性介助を嫌がる方には同性介助をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間覚醒され耳が聞こえないため大きな声で話される方がいるが職員が対応している。またリズムを自然と整えることが出来るように日中の働きかけをしたり、薬をあまり用いない方法での対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみごとを大事に対応しており、個別と集団のバランスにも注意している。ただできる限り対応しているが限られた人員の中でできる事とできない事があり柔軟に対応できるまでには至っていない。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が望んだ品物の買物は一緒に買物にいき本人に支払ってもらうようにもしている。個々人によって所持する場合もあるが家族と事前に話をし少額のお金の所持でとどめて貰う事や紛失してもこちら側は責任を負えない事を理解してもらったうえで対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿ってというのは対応しているが十分に対応できている状況は難しい。最低人員の中でできる限りの事は一生懸命取り組んでいる。	○	現在、理事長や法人本部で経営面を考慮しつつ、個別対応の充実を図る為に、具体的な話しを進めて対応を改善しようと努めてくださっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その時々状況にあわせて家族との相談が必要な時もあるが墓参りに行ったり、自宅が気になるからと付添ったり、田んぼを見に行ったりもしている。またある程度行事として事前に人員を配置して外食をしたり地域行事、法人の行事に参加したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人ごとに対応している。実際に電話をしたいと話があった時に連絡を入れることが出来る。ただし、本人の能力上問題があり家族からある程度制限してほしいとの要望もある場合は要望に沿うように対応もしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時に挨拶をして説明をいつでも来園できる事を伝え気軽にきていただけるよう心掛けている。また他の人が話しかけたりするときもあるのでなるべく本人の居室へお通しするようになっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当園独自の身体拘束廃止改善計画書を作成し、年2回の自主研修を年間計画で組んで実施してきた。またその際には状況把握をおこない評価している。実際に起こった際の段取りについても学んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	上記のことでもあるが身体拘束の一つだと言うことを全員で学んで取り組んでいる。日中、外に出て行かれる方もいるのでその際には携帯を所持して職員が付添っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が記録を取る際など入居者が見渡せる位置で記録をしたり、落ち着かない方には隣に座って記録をしたりと工夫している。こちらの都合で入居者の位置を動かさないようにしている。特に夜間は一人で大変だが自室で休んでもらうことを原則としている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人個人ではさみや針など管理している方もいる。危険だから全てなくすのではなく本人がその事で生活の幅を広げることが出来るのであれば個人の能力に応じて家族へ危険性も説明してお互い合意のもとで取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルがあり、それを元に職員で勉強をしてきた。連絡方法などについてもいつでも対応できるように電話口に掲示。また、職員会議内で職員全員でヒヤリ・ハット、事故報告書の話し合いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人合同で応急手当、処置方法についての研修をしたり消防署と協力して応急手当を学んだりしている。また起こった際に連絡方法などについても決めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を中心として今年度はじめて近隣住民と合同での消防訓練を実施できた。事前にチラシを配り当園の説明を行い、消火訓練も一緒にしたことによって近隣の参加がえられた。また、現在は普段から協力がもらえるように取り組んでいる		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の中には安全を求めるあまりにできる事を奪ってしまっている場合もあり、入居時の説明の段階でこちらの方針をきちんと家族に伝えて、本人の為にお互いに協力してもらうように話をしている。当然そのリスクは日々変化しており家族と一緒にその都度対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ケース記録やバイタルチェック表など記録の工夫を行い情報共有できるようにしている。またいつもと違う行動や言動が見られた際にも速やかに状況に応じて医療機関と連携している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬表をつづり、誰でも確認できるようにしている。飲み合わせの悪いものも対応している。家族や先生とも連携して、その経過についても病院へ付き添う家族や先生へ情報提供し、本人に適した薬の量が出されるように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく自然排便が出来る様に食物繊維の多いものを食べていただいたり、牛乳を提供したり、ヨーグルトやヤクルトなどを提供するようになっている。必要時には医療機関との連携を図っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいはお茶でしていただくようにしている。舌などにも注意して口腔清潔に努めており個々人で職員が対応している。また協力歯科医院に通ったりして義歯調整したりして口腔清拭に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を大事にしており、食事に関しては摂取量を記入しており食事摂取量が少ない方は高濃度液状栄養食を提供している。また法人の管理栄養士による研修や献立の確認を時々してもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成しており、自主研修として職員会議などで勉強会をしたりしている。手洗いうがいはもちろん次亜塩素酸での消毒を定期的に行い記録として残すようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	乾燥機を活用したり毎週1回冷蔵庫の清掃日を設けて取り組んでいる。食材に関しては毎日買物に行くので次の日の分までしか買わないようにしており、基本的に使いきって残さないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体は特に周りからういて見える造りではない。なるべく気軽によっていただけるようにさりげなく花壇や置物をしている。スロープがあり、手すりもついているので出入りしやすい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地的に周りに養豚場や種鶏場が多いので臭いについては気になる事があるが建物内は気を使っている。居室内も個々人の身体状況にあわせてベッド・ポータブルなど配置し、それぞれ個人ごとにポスターなどを飾ったりしている。また季節の花々を取り入れるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置をみんなでくつろげる所と一人くつろげる所をつくっている。一人になれるところとみんなと一緒にになれるところと配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は居心地良く過ごせるように個々人で対応している(位牌をもちこんだり、使用していたタンスなど)しかし逆に持ち込むことによって本人が戸惑いそうなものについては家族と相談して遠慮してもらう場合もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は定期的に行っている。(立地的に周りの臭いにも気をつけている)空調管理もしている。また個人個人の体感温度が違うので居室内の温度はその点に配慮している。居室によっては消臭剤を置いている部屋もある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分に関しては手すりやナースコールがあり、浴室に椅子や滑り止めマットがある。各居室内に関しては個々人に合わせたベッドやポータブルトイレがあり、配置や高さを調整している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室名については必要に応じて対応しており、名前を書かなくても分かる方には何も書かれていない。引き戸が大半なので出入りに扉を押ししたり引いたり間違いが少ない。なるべく入居者が不安や混乱してしまうことのないように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯干し場をもうけている。畑もある。挿し木を楽しむ方もいる。過ごしやすい季節の時には外に椅子を出して差し上げ日向ぼっこをしたりする場所がある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

人生にはかけがえのない大切な思い出がいっぱいあります。自分のペースで穏やかに、「人」としての尊厳を大切に困った時にはそっと手をさしのべてくれる誰かがいつもそばにいる安心感。私達は安らぎに満ちたお手伝いをさせていただきます。